グラフにみる　No. 2

子供と老人が多い本県の人口

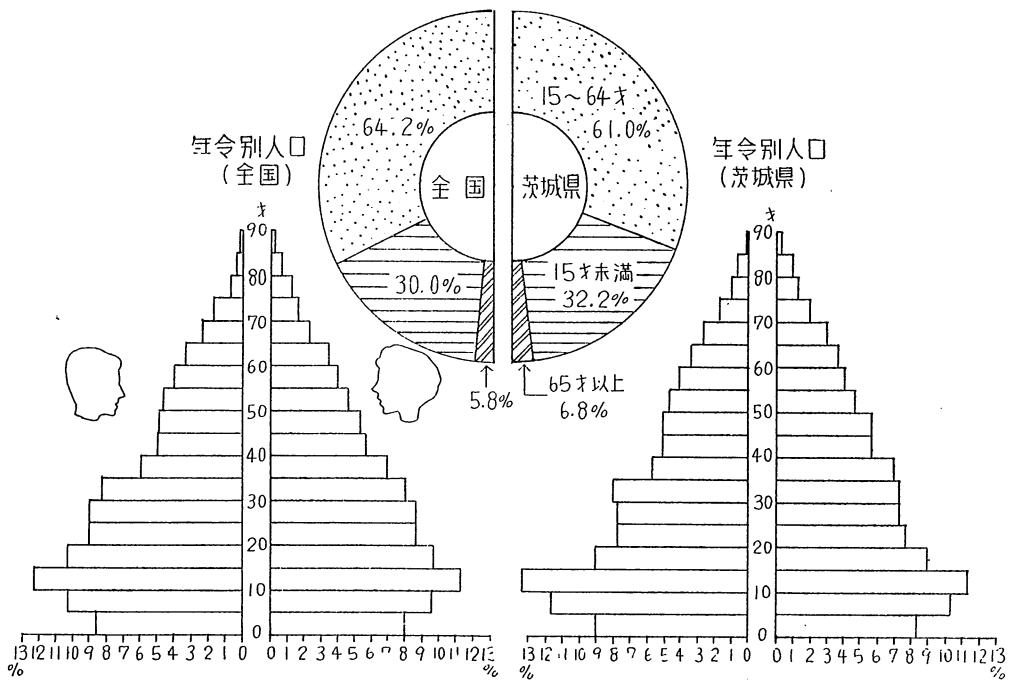
人口の性別年令別分布図（人口ピラミッド）は，過去の人口現象一出生，死亡，転入，転出，など人口移動の集積結果であり，その国あるいはその地域の社会，経済状態の変化発展の模様などを物語るものとして注目される。

昭和35年の国勢調査による本県人口と全国の人口を，人口ピラミッドに画いてみたが，これを見ると両方とも10才未満では減少が目立つており，ツボ形の分布をしている，これは戦後急速な出生率の低下を現わしていることが原因と思われる。昭和35年国勢調査による15才以上既婚日本人女子の平均出生児数は，全国で3.22人本県では3.63人となつている。

またこのように低年令の人口が少ないということは，将来において生産年令人口の減少という結果になる。

この人口ピラミッドを比較してみると，全体として本県の方がスタイルがいいように思われるが，はつきりとした差はつかみにくい，そこで別に幼年人口（0～14才乳児人口も含む），生産年令人口（15～64才）老年人口（64才以上）とに分けパイ図を画いてみた。これを比較してみると明らかに本県の人口構成は，全国にくらべ幼年人口と老年人口が多く，生産年令人口が少ないということが認められる。これは本県における毎年の人口動態統計による社会移動をみると転出超過を示していること更には本県で生れ一人立で働けるようになつて，東京など経済，文化の面でも恵まれ，働くのには好都合の都会に出て行き，やがて停年退職というときには，また故郷に落付くという，人口の社会移動の奥に密められているとこがうかがわれる。

本県としても総合開発事業の推進にあたつて労働力人口をどのようにして得るかということは大きな問題の一つでしよう。（生井）



★統計資料案内★

<不定期刊行物>

資料名	調査年刊行年	発行者
人口		
国勢調査報告	35年	総理府統計局
全国年令別人口の推計	36年10月	〃
都道府県人口の推計	〃	〃
農林水産		
水産物流通調査結果報告	36年	農林省統計調
漁業粗生産金金額試算結果	35年	〃
1960年センサス市町村別統計書（茨城県）	35年	〃
豚の生産異動に関する統計	37年4月	〃
経済		
事業所統計調査報告	35年	総理府統計局
消費者動行予測調査結果	37年	経済企画庁調査局
全都市消費者物価の概況	36年度	総理府統計局
法人企業投資実績調査	〃	経済企画庁調査局
主要経済指標	37年	通産省
工業統計50年のあゆみ	36年	〃
毛糸，毛織物品種別統計表	37年	〃
工業統計調査事後調査報告	37年	〃
ゴム工業生産設備調査書	36年	〃
その他		
国際統計要覧	1961年	総理府統計局
主要貨物発着関係府県別トン数年報	35年	日本国有鉄道事務管理統計部
英文ハンドブック	1962年	総理府統計局
鹿島臨海工業化の構想	37年	日本経済研究所
京葉臨海工業地帯道路輸送計画	37年	〃
釜谷地区経済調査報告書	〃	〃
千葉県後背適正工業規模の想定	36年	〃
都道府県		
福岡県民所得推計報告書	35年	福岡県
新潟県勢要覧	1962年	新潟県
主要農産物販売農家集計結果報告	37年	群馬県
林業経済調査報告	36年	〃
県民所得推計結果報告	35年	岐阜県
〃	〃	神奈川県
商工統計調査速報	36年	東京都
雇用指数賃金指数	36年	愛媛県
統計コーチ	1962年	高知県統計協会
推計人口	37年	埼玉県
産業活動の鳥かん	〃	兵庫県
主要農作物販売農家集計結果報告書	1960年	香川県
農産物商品化程度別集計結果	〃	島根県
学校基本調査結果報告書	36年	〃
福井県勢要覧	〃	福井県
学校基本調査結果報告	〃	大阪府
税務統計書	34 35年	富山県
市町村別推計人口	37年	兵庫県
福岡県統計年鑑	35年	福岡県
秋田県勢要覧	37年	秋田県
埼玉県市町村勢概要	〃	埼玉県
埼玉県勢要覧	〃	〃
兵庫のすがた	1962年	兵庫県
静岡県市町村勢統計要覧	35年	静岡県
埼玉県統計年鑑	37年	埼玉県
佐賀県鉱工業生産指数	36年	佐賀県
工業統計調査結果報告	35年	〃
水産業統計調査結果報告書	36年	富山県
工業統計調査報告	35年	東京都
東京都昼間人口の集計報告	37年	〃
主要冬作物生産統計	36年	農林省茨城統計調査事務所
茨城県人事統計年鑑	〃	茨城県総務部総務課
農業協同組合要覧	35年度	茨城県農政課
中小企業のモデル賃金	37年	茨城県労政課
中小企業の賃金事情	〃	〃
県内中小企業の労働事情	〃	〃
中小企業における労務管理の分析	36年	〃
都市近郊地帯における農業の実態	37年	茨城県水産部企画課
茨城農林水産統計年報	36年	農林省茨城統計調査事務所
物価賃金4月の動き	37年	〃
交通統計	36年度	茨城県警察本部
消防年報	36年	茨城県消防防災課
労働時間休日休暇等労働条件に関する調査結果	37年	茨城県経営者協会

<定期刊行物>

資料名	月号	発行者
中央官庁		
日本統計月報	4	総理府統計局
消費者物価指数	3.4	〃
労働力調査報告（速報）	3	〃
小売物価統計調査報告	2	〃
労働力調査報告	2	〃
人口推計月報	2	〃
指定統計調整報告届出統計月報	4	行政管理庁統計基準局
統計情報	3	〃
通産統計月報	5.6	通産大臣官房調査統計部
百貨店販売統計月報	3	〃
出荷，在庫統計速報	5	〃
生産統計速報	4.5	〃
繊維統計速報	4	〃
紙，パルプ統計速報	4	〃
日用品皮革統計月報	2	〃
ゴム統計月報	2	〃
窯業建材統計月報	2	〃
機械統計月報	2.3	〃
繊維統計月報	2.3	〃
商業動態統計速報	2	〃
通産広報	4.5	通産大臣官房広報課
労働統計調査月報	4.5	労働大臣官房労働統計調査部
労働経済指標	5	〃
賃金，労働時間および雇用の動き	2.3	〃
教育統計	4	文部省調査局統計課
世界の動き	5	外務省情報文化局
会社団体		
都道府県展望	5	全国知事会
広報研究	6	全国広報研究会
農林金融	5	農林中央金庫調査部
漁村経済	3	全国漁業協同組合連合会

資料名	月号	発行者
調査月報	5	日本産業構造研究所
経済統計月報	3.4	日本銀行統計局
農林図書資料月報	3	農林統計協会
自動車販売実績調	1.2	自動車工業会
統計	3	日本統計協会
都道府県		
統計あおもり	4.5	青森県統計課
統計いわて	5	岩手県統計協会
みやぎ統計	5	宮城県統計協会
統計春秋	3	福島県統計協会
統計ぐんま	5	群馬県統計協会
統計月報	4	埼玉県統計協会
統計千葉	5	千葉県統計協会
統計東京	5	東京都総務局統計部
東京都標準世帯家計調査報告	2.3	〃
統計だより	3	東京都統計協会
神奈川の統計	5	神奈川県統計協会
統計月報	1.2	愛知県総務部統計課
京都市統計情報	5	京都市行政局統計課
会議所月報	4.5	大阪商工会議所
大阪の統計	3	大阪府統計課
統計月報	5	鳥取県
島根の統計	5	島根県統計協会
統計の泉	5	広島県統計協会
統計月報	4	山口県
小売物価統計調査速報	2.3	香川県統計課
えひめの統計	4.5	愛媛県統計協会
統計福岡	4.5	福岡県統計課
統計佐賀	3	佐賀県統計課
統計月報	3	長崎県総務部統計課
統計鹿児島	4	鹿児島県統計協会
農業茨城	6.7	茨城県農業技術研究会

経済スポット

経済活動と人口構成（その一）

国や県の経済の中心は生産でありますが，生産が行なわれるためには労働，土地および資本が必要であります。そこで，わが国にはどれだけの労働人口があり，それらの人口はどのような種類の職業についているか考察してみましょう。

昭和35年国勢調査によりますと，わが国の人口は9,335万人に達し，大正初年に比べ約2倍，明治初年に比較すると3倍という大きな増加であります。この間の人口移動の大勢をみますと4大工業地帯（京浜，中京，京阪神北九州）に集中していることがわかります。

なかでも東京の人口は966万人に達し，世界第一の大都会になりましたが，それに反し，それら4大工業地帯以外の地域においては年々増加率の減少を示しております。このように人口増加率に大きな開きがあるのは，人口の自然増加率に差があるとともに，さらに人口の社会増減が大きく作用しているからであります。いうまでもなく人口の社会増減が起きるのは，職業を求めて労働力が産業発展の低い地方から高い地方へ，あるいは農村から都市へ移動するためです。このように都市に人口が集中するため，いわゆる都市問題が発生していることは，新聞その他で充分知ることができるでしょう。つまり，人口とこれを収容する施設能力との不均衡を生じ，住宅や下水，排水などの諸施設の不足，交通の混雑等の諸弊害が起きております。また反面，農業就業人口の減少についてもいろいろな問題が生じております。ここで少し農業近代化の第一の契機となるところの農業就業人口の減少についてふれてみましょう。

戦前のわが国の農業就業人口は長い間1,400万人を維持してきましたが，戦後食糧難等の要因による農業への人口流入，農地改革による零細農家等の増加によつて昭和25年には1,600万人にも膨張しました。しかし，その後就業人口は急速に減つて昭和33年には1,466万人に，昭和35年には1,322万人になりました。つまり，昭和25年から昭和35年の10年間に278万人の就業人口の減少があつたわけであります。しからば，このような大巾な就業人口の減少というものは一体どのような形で行なわれてきたものなのでしょう。

就業人口が減少する経路には，次のような要因が考えられます。

つまり，一つは死亡引退などの退出人口に見合うだけの補充人口がないこと，すなわち，退出人口を分母とし補充人口を分子としたものを補充率といいますが，その補充率が1.0以下に低下するという形での減少方法であります。いま一つの方法というのは，職業移動によるものであります。わかりやすく申しますと，ある学校の在校生の数が減少するということを事例として考えてみましょう。

このことは，卒業生の数と等しい新入生がその学校にはいつてこない場合と，その学校の在校生が転校していく場合とが考えられます。

すなわち，補充率が低下することは，新入生の数が卒業生の数を下回る場合に相当し，職業移動は転校に当るわけであります。

それならば，最近の農業就業人口の減少はどのような経路をたどつてきたかを申しますと，それは補充率の低下によるものであるとされております。そして，この補充率の低下は経済成長率ときわめて関係が深いのであります。戦前，補充率が固定しており，農業就業人口が変らなかつたときの経済成長率は年平均4～5％でありました。それが，戦後，補充率が低下し，農業就業人口が減つた背景には年7～8％という高い経済の成長がありました。成長率が高く，非農業部門における労働需要が強い場合，新規学校卒業者が非農業部門に多く吸収され農業就業人口は減少することになります。したがつて，

前年でお話した所得倍増計画の期間中の農業就業人口の見込しは第1表のように計画されておりますが，すでに昭和35年度において国調では1,322万人で，計画表の1,414万人と大きな開きがあることに注意しましょう。

（第1表）　　農業就業人口の見通し　　（単位万人）

年度	年度初め就業者数	減少 死亡	減少 引退	減少 転職	減少 計	増加 新規就業	純増	年度末就業者数
35	1,414	13.7	28.4	11.5	53.6	17.8	35.8	1,378
36	1,378	13.4	27.7	11.2	52.3	17.4	34.9	1,343
37	1,343	13.0	27.0	10.9	50.9	16.9	34.0	1,309
38	1,309	12.7	26.3	10.6	49.6	16.5	33.1	1,266
39	1,266	12.3	25.4	10.3	48.0	16.0	32.0	1,234
40	1,234	12.0	24.8	10.0	46.8	15.6	31.2	1,203
41	1,203	11.7	24.2	9.8	45.7	15.1	30.6	1,172
42	1,172	11.4	23.5	9.5	44.4	14.8	29.6	1,142
43	1,142	11.1	22.9	9.2	43.2	14.4	28.8	1,113
44	1,113	10.8	22.3	9.0	42.7	14.0	28.7	1,082
45	1,082	10.5	21.7	8.8	41.0	13.6	27.4	1,055
平均	—	12.1	24.9	10.1	47.1	15.6	31.5	—

（注）　1　本表は「所得倍増計画の解説」による。
　　2　34年度初め就業者数1,451万人からスタートしている。

このように人口移動というものは，経済の発展につれて当然起る現象であるが，労働力が新しい職場とより高い賃金を求めて移動することは経済の成長によつて必要なことなのです。しかし，これには次のような諸問題を含んでいるわけです。つまり若い年令層が都市へ集中するので，後進地域に労働力の中心となる15才～59才の人口が少なくなり，その結果後進地域の所得水準を低位にすえおくことになります。いま各地域における15才～59才人口の全人口に対する割合をみますと

全国	61 %
全市	64 %
南関東	67 %
近畿	64 %
東海	63 %
南九州	53 %
四国	57 %

となり，このか表らみても南九州は全国平均61%よりも大巾な減を示していることは，南九州地域住民の所得水準を低位にすえおくことを物語るものであります。

また，この他に，さきにも触れましたように，都市に人口が集中するため都市問題が発生し，最近の東京都における水不足，交通難，あるいは犯罪の増加等は日本の大きな社会問題となつております。

次に人口移動の結果を雇用構造から考察した場合ですがこのことについては次号でお話しすることにしましょう。　　（経済統計係長　横須賀　弘）

市　町　村　の　横　顔

古　河　市

（飯島市長）

1　概　況

古河市は本県の最西端にあつて，東京へは南へ64粁，東北本線が完全に電化された今日では電車で1時間15分で行くことが出来，県庁所在地の水戸市へは東方へ92粁，汽車で2時間15分の位置にあり，東は猿島郡総和村，南は利根川をへだてて埼玉県に接している。

市の北西部には広大な渡良瀬遊水池があり，渡良瀬，利根の両川に囲まれた関東平野の中央部にあるので，土地は平坦であるがやや東に高く西に低い。

昭和30年3月15日に新郷村を編入合併し，面積 21.03 km²で，昭和37年4月末日現在の人口は44,586人で，1平方粁につき人口 2,120人で人口密度においては県下のトップであります。昭和35年国勢調査による就業人口は17,318人であり，そのうち第1次産業に従事するもの6,014人，第2次産業のそれは6,014人，第3次産業は8,365人で，農林水産業以外の第2次，第3次産業に83%が就業している。また就業人口のうち約4,500人は東京，埼玉などへの通勤者であることも古河市の大きな特色であります。

昭和37年度には古河総和地区が首都圏指定候補地に指定され，すでに住宅公団において，団地用土地買収費として7億円が予算化されており，古河市に住宅団地25万坪，総和村に工場団地として42万坪，38万坪の2団地が造成されようとしております。そして市では現在，首都圏として指定されるよう，古河総和首都開発区域整備方針を策定し，関係機関に強力にはたらきかけている。

この方針によれば，昭和50年の居住人口目標を約19万人とするというもので，既存産業の進展，都市施設の充実等により約6万人を，工業開発を中心として新たに13万人を吸収するものとしている。

2　産　業

産業としては，洋傘の製造，生糸の生産等が主なもので，市内に洋傘を製造している事業所は16あり，従業員数は700人，年間160万本を製造し，その販売金額は3億5千万円で，出荷先をみると関東へ80%，東北へ10%，残りの10%は輸出している。また生糸の生産額は15億6千万円で，我国の主要輸出品として海外に出されている。そのほか，渡良瀬川流域に叢生する葭によつて作られるヨシズも有名であり，これは水郷，古河の特産品で冬季の霜除け，夏季の日除け用として，又軽建築資材として最近では一部輸出されている。こうみてくると現在の古河市の場合産業都市というよりも，ベツドタウンとしての性格が非常に強く，そういうこともあつて市では現在区画整理事業を実施中で，40年までには26万7千坪の整理地区に市営，民間を合せて 2,500戸の住宅建設を予定している。

また37年度中には36,000人分の処理能力を有するし尿処理場が，38年度中には17,000人に給水可能な上水道施設の完成がそれぞれ予定されている。

3　教育文化

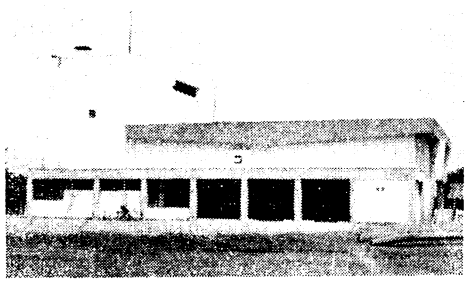
まず他市町村に誇つてよいと思われる施設として，市公会堂がある。この公会堂は写真にみるように鉄筋コンクリート造りの立派なもので，36年度に工費3千万円で完成され，建坪289坪，収容人員1,100名という大規模なもので，地域社会の教育文化の発展に大いに貢献している。

学校関係では，第1・3・5の各小学校に20m×25mのプールがあり，近くに渡良瀬川のある古河市でありながらと一寸不思議に思われますが，これは渡良瀬川での水泳訓練で犠牲者を出すことも多く，このような事情から市民の間で，学校へプールを設けるようにとの声が強まつたために作られたものであり，本年度は更に第2.4小の2校に建設が予定されている。

中学校では古河2中が，学校の施設において恵まれており，体育館も35年度に完成している。このようなことも影響してか進学の合格率は隣接校にくらべ抜群の成績を納めているとのことである。

市民の楽しみの一つとして，関東の珍祭として知られている「野木明神提灯祭り」は12月3日夜市内繁華街で行なわれたもので，大小数十本の竹竿の先に化粧提灯をつけてもみ合う数千の若衆の勇壮さと，全市不夜城を現出する様は正に奇観であるそうだ。

最後に地理的条件に恵まれ，時代の流れに好機をとらえた古河市が，飯島市長のもとで，今後一大躍進をされんことを願つて紹介をおわります。



（公　会　堂）

人間を考える(2)

茨城大学教授
塚本勝義

二十五六までの私は夢の多い人間でした。三十位までの，あるいは三十五六位までの私は少くとも傲慢な人間でした。しかし，四十にも近い今となつては，自分というものにもあらかた見当がついたという感じです——と中野重治氏は述懐している。浪漫的人間から傲慢不遜な人間へ，それから現実的人間へ，と成長して来たのが中野氏の歩みだ。この歩みは，素直に生きる人間の標準的成長様式らしい。もつとも，人によつては十七八でも早くも傲慢不遜になるし，二十台で現実的になり切つてしまう者もある。年令的に一様でないが，夢みる時期から高ぶる時期へ，そして暇があると預金帳など眺める時期への移る生命のうねりは，まずは万人共通といえる。

ところが，四十台の現実家は，二十前後の夢みる人々を甘過ぎると評し，傲慢の時期に生きる人々を，仕事もできないくせに鼻ばかり高くすると非難し易い。これは誤解だ。見当違いの暴言だ。みんな，めいめいの時期を素直に忠実に真剣に生きているんだ。だから，でつかい夢を見たがいい，もつともつと鼻を高くしたがいい，と言うことこそ本当だ。残念ながら，日本の大人たちは，こんな，人間の実態を見究めた批評や助言ができるほど成長していない。体が伸び足りないだけでない。心の方も，さつぱり育つていない。

◇　◇　◇

やはり中野氏は〔むらぎも〕の中で，たつた一つのイボが一人の女の一生の運命を決定して行く——と言つている。イボなんて，およそつまらぬものだ。気にするのは本人だけ。人様なんかてんで問題にしない。それでいてご本人は夢の中でうなされるほど気がかりだ。イボなんかにひつかかつてるより，頭の中味のお粗末なのを心配する方がよつぽどましなんだが，それができない。情ない人間性である。

イボを気に病むだけではない。人間は，全くくだらんものにひつかかり，心を痛める。芥川竜之介の〔鼻〕という作品は，この人間のつまらぬ気苦労をテーマとしたもの。二人の武士が鼻のことで喧嘩となり，斬り合いになるという筋だ。

会議なども本筋の問題でもむよりも，とるに足らぬ枝葉の問題で時間をつぶす場合が多い。

◇　◇　◇

〔愛している〕ということと〔正しい〕ということとは同義語でないと福一雄氏はいう。

世の中には正しい愛もある。正しくない愛もある——という意味だろう。

けれども愛の正邪を見究めるのは容易でない。本気の愛だから正しいとも限らぬ。相手を不幸にした愛だから正しくないとも言い切れぬ。結果の幸不幸だけで愛の正邪を判断するのは，あまりに打算的だ。正しい愛の実感者だつて不幸に陥る場合もある。善人が一生みじめで終るように。

◇　◇　◇

〔わたしは醜いから誰にも愛されない〕と書いた女を知り，その女とすぐ結婚した詩人生田春月は，まもなく瀬戸内海に投じて自ら命を絶つた。彼のなきがらはついに発見されなかつた。

春月の醜女に対する愛は正しかつたかも知れぬ。しかし，その激しい愛も彼の死をとどめることはできなかつた。いや，却つて死を早めたかも知れぬ。春月に愛された醜女の運命はどうなつたろうか。彼女といえども，春月に愛される前よりも幸福になつたとも考えられない。

とにかく愛の正邪は判りかねるが，愛の力の強いことは，はつきりしている。深く愛すれば，相手を自由に動かし得るし，相手の自由を思うままに束縛し得る。強力であるのに正邪が不分明なんだから愛は明らかにクセモノである。

◇　◇　◇

男は恋にさえ陥らなければ，どんな女性とも幸福に交際して行ける——と，オスカー・ワイルドがつぶやいている。恋がなければ，散歩も会食も観劇も，いとも気楽にできる。昨日はA女，今日はB女，明日はC女だつてちつともおかしくない。お揃いのところを悪友に発見されたつて，へいちやらだ。ひやかされても堂々と太刀打ちできる。

たしかに恋のはいらぬ交際は朗らかだ。幸福でもあろう。が，弱点もなくはない。朗らかだがしみじみしない。物足りない。一歩突つ込んでいえば〔苦しみ〕がない。だから〔深いよろこび〕もないということになる。

【続】